

「第5回ネパール文化紀行」報告概略

「第5回ネパール文化紀行」は、2012年12月29日～2013年1月5日までの日程(別紙)で松本市民を始めとする参加者13名により実施致しました。参加者一行は、カトマンズ市を表敬訪問して、世界文化遺産を探訪し、アンナプルナ山群展望ハイキング、そして釈迦の生誕地ルンビニの訪問を行い、「山と美しい自然」を仲立ちとした松本市とカトマンズ市の姉妹都市交流の責任も果して参りました。



12/29(土) PM10:00 カトマンズ空港到着。カトマンズ市役所市長室長らから歓迎を受ける。



12/30(日) AM10:00 カトマンズ市長、ケダール・バハドゥール・アディカリ氏を表敬訪問する。



カトマンズ市長から記念品仏陀像が、一人一人に手渡される。各人覚えたネパール語で、自己紹介して、挨拶する。昼食はカトマンズ市から招待され、タメールのホテル屋上で、ダルバート料理をいただく。



昼食後、カトマンズ市職員らと別れ、道端の土産店を物色しながら、徒歩でカトマンズの世界文化遺産、旧王宮を訪ねる。その入り口近くには、忿怒相をしたシバ神の化身カラバイラブ像に出会う。



旧王宮前周辺は、ハヌマンドカと呼称され、タレジュ寺院、ジュガンナート寺院など、中世紀の寺院や小堂が建ち並んでいる。旧王宮内入口には、悪王ダイテを懲らしめるナルシング像が立つ。



旧王宮最大級の建物、バサンプールバワン、木造、9階建、高さ31m、最上階の窓から、吊り下げられた風鈴越しに、カトマンズ市街を望む。



旧王宮内のナサール・チョク(広場)で記念撮影 ナサール・チョクから見上げるバサンプールバワン



バサンプールパワンの屋根を支える木彫りの男女神像の方杖。



旧王宮外部、ダーバースクエアは、カトマンズの人々が分け隔てなく自由に通行ができる。



生き神様が住むクマリ館内部。ネワール族釈迦の子孫、サキヤ族からクマリとして若い女兒が選ばれる。クマリは国の守護神として庇護されている。



ビシュヌ神の乗り物ガルーダとマハ・デビ寺院。



AD16C末、1本の大木で建てられたといわれるカスタマンドアップ寺院。カトマンズの語源と言われる。



カトマンズの西方小高い丘に建つ
仏教寺院スワヤンブナート。

観音菩薩像があり、土地の信者、ヒ
ンズー教徒も参詣する。

基壇を取り巻くマニ車を回し、
神妙に功德を積む(?)参加者。



スワヤンブナートは、385段の石段を登った小高い丘に建つストウパ様式の仏教寺院。四面に描か
れた眼は森羅万象を見通す仏陀の目を表わし、空にはためくタルチョーは、五大宇宙を表わしている。



スワヤンブナートの丘から見渡す、カトマンズ市街地。1/31AM9:00、宿舎のホテルに、クムジュン校運営
委員のパサンダワ氏に来てもらい、安曇野市穂高北
小学校からの文具と手紙を手渡す。



AM11:00、空路カトマンズからポカラへ向かう。機内の丸窓からシュガーヒマール、マナスルを望む。



AM12:00 前、明るいポカラ空港、標高約 900mに到着する。北方に 8000m級のアンナプルナ山群を望む。ペア湖畔に憩い、街を散策すると、やっと旅で安らぎを得た気がしてくる。



昼食後、2台の車に分乗し、サランコットの丘を目指して、蛇行する車道を登る。1時間程で今日の宿、シェルパ・リゾートロッジに到着する。ロッジの屋上から、午後の陽を浴びた、アンナプルナ I 峰 8091m 右奥、アンナプルナサウス 7219m 左を望む。



アンナプルナの前衛、午後のマチャプチャレ 6993m

夕焼けに染まるアンナプルナⅡ 7937m



2013年1月1日、サランコット山頂から初日の出を拝む。厚い雲が覆い展望は効かないが、全員で記念撮影。



AM9:30、朝食後、ロッジにお別れをして、展望ハイキングをしながら下山する。途中、道端の小店に立ち寄り、買い物をしていると、雲が晴れ、青空にアンナプルナ山群が、空高くその姿を現した。



展望ハイキングは、村々を結ぶ石段の道を下りていく。温かな陽ざしの中、日向ぼっこする村人



PM2:00、専用機で、ポカラから空路、ルンビニのバイラク空港へ向かう。ホテルに到着後、荷を置き、早速、力車を駆って、釈迦生誕地を訪問する。マヤ・デビ寺院入り口からは、素足で参詣に向かう。



釈迦の生誕地マヤ・デビ寺院の遺跡。この白亜の建物内部に、発掘された寺院が保存されている。発掘中、その礎石の下に、釈迦が誕生したと記された印石が発見された。またマウリヤ王朝のアショカ王が建立した石柱、仏塔、僧院なども現存していて、学術的にも釈迦生誕地として証明され、世界文化遺産として登録された。また、手前の池は、生母マヤ・デビ夫人が沐浴した池と伝えられている。



菩提樹の大木の下で座禅を組み、修行する仏僧。



マヤ・デビ寺院で読経する、巡礼僧。



素足で、マヤ堂、池の周辺を巡る参加者。



マヤ堂を離れ、広いルンビニ平和公園を力車で巡る。



ルンビニ平和公園建設時より燃え続ける灯



ルンビニ平和公園にある日本仏教協会建立のストウパ様式寺院



この平和公園のマスタープランは、日本人建築家丹下健三氏の案で、ここを世界規模の聖なる場所にすべく考案された。公園内には中国の仏寺、韓国の建築中の仏寺、他ドイツ、フランス、ミャンマー、タイなどの仏寺がある。



1/2 霧の中、AM8:30 ホテル出発。ルンビニ園から北西 29 km離れた、釈迦族の居城、カピラ城跡を訪ねる。



城跡は、南北約 500m、東西約 450mの長方形状を呈し、周辺はレンガ塀及び土塁で囲まれている。釈迦は釈迦国の王子として、この城で育ち、人間の生老病死に触れ、29歳で出家するまでこの城で過ごしたといわれる。



地表に表われている東門、西門跡、住居跡、貯水槽跡、そして発掘の様子を国の管理者から説明を受ける。しかし、多くの遺構は、地地下 2.5m付近に埋もれたままになっているという。



国の管理者によると、釈迦は、この東門から出て、東南の方向へ向かい、出家したと説明する。途中まで同行した召使と馬の墓がこの方向に在るという。

門から北へ続く城壁、発掘によると、幅 3m、深さは 7~8mであったという。



幅 3mの城壁の上を徒歩で 10 分程北へ向かうと、地中に埋まった大小のストゥーパに辿り着く。これは、釈迦の父スッドーダナ王と母マヤ・デビの墓だと説明を受ける。



カピラ城内の寺院跡、菩提樹の根が建物を取り囲んでしまっている。



カピラ城跡から、車で 5 分程のところ、発掘した遺物を陳列した博物館があり、訪ねてみる。発掘時の写真、当時のレンガ、壺、茶碗、お金や宝石類など、ガラスケースに納められていた。



1/2PM5:00、カトマンズ行の飛行機に乗る。飛び上がるとヒマラヤの山群が夕陽に赤く照らし出されている。カトマンズ空港からは、2台の車に乗り、1時間程車に揺られて山路を登る。PM7:00 ナガルコットに到着、泊す。



1/3 晴れの朝を迎える。西にランタンリルン 7225mが朝陽に輝き、北方に、ジュガール山群が近くに望まれる。



穏やかな朝の陽に輝く、ナガルコットと、ジュガールヒマール主峰、ドルジェラクバ 6986m



ナガルコット、ホテル屋上から朝陽に輝くヒマラヤを望む。西側の眼下にはカトマンズ盆地の田園風景が広がる。



午前中カトマンズ郊外の小高い丘に建つ、世界文化遺産ヒンズー教最古のチャングナラヤン寺院を訪ねる。小店が並ぶ坂道を歩き、石段を昇る。途中、日なたで山羊と戯れる少女に出会う。



寺の創建はAD4C。ヒンズー教3大神のひとり、宇宙の維持者ビシュヌ神を祀っている。周辺のネワール族により、崇拝され見守られてきた。二層の建物は、カトマンズ盆地で最も古く、美しい建物として有名だ。



境内には、国宝級の石像があり、人顔のガルダ（金翅鳥）は、ビシュヌ神の乗り物として崇められている。



寺院の彫刻

ガルダに乗るビシュヌ神の石像



昼近くに、街全体が世界文化遺産のバクタプールを訪ねる。別称バドガオンとも呼ばれ、信仰の町を意味する。



黄金の王宮入り口と 55 窓の宮殿



王の沐浴場



旧扉前でたたずむ老女



ダーバースクエアとシカラ様式石造のバトサラ寺院



道端に小店が並ぶバクタプール



トマディートレ広場に出ると、ビシュヌ神の神妃ラクシュミーを祀る高さ 36m のニャタポラ寺院が建っている。ネパールで最も高い寺院で石段の両側には力士、像、獅子、怪獣グリフィン、女神が配置され本尊を守っている。





ニヤタポラ寺院石段上部からの景観。手前に像、獅子、怪獣グリフィンが立ち、後方に、午後の陽をいっぱい浴びたトマディトーレ広場が広がり、その東端にバイラブ寺院が建っている。



天秤式に荷を担う農民



果物を売る店



靴を修理する職人



仏画を売る店



仏具を売る店



バイラブ寺院脇を東へ 10 分程でタチュパルトーレ広場に出る。その東奥に、ヒンズーの三大神シバ神の化身ダッタトラヤを祀るダッタトラヤ寺院がある。AD15C に一本の大木で建てられ、重厚な木彫りがある。



日なたで果物の皮をむき、憩う老人。



みやげ店



日向で井戸端会議する老人



タイヤの回転を利用し皿づくり。



日干ししている皿。



露天でから揚げをしている。



AD15C に製作された芸術性の高い孔雀の窓。その前で彫刻土産を売る店。



道端の野菜、果物店



1/3PM6 : 30、松本ヒマラヤ友好会より、ケダール・バハドゥール・アディカリ、カトマンズ市長ら 9 名のカトマンズ市職員らを招いて、ネパール文化紀行の報告夕食会を開催。参加者の感想と、交流の今後を語り合いました。ロック酒を飲み、レッサンフィリリを歌い踊り、ネパール料理を楽しみました。



1/4AM8:00、快晴の朝を迎え、エベレスト方面のマウンテンフライトに挑む。18 人乗り小型飛行機に乗り込み、狭い機内の丸窓から、震えるような感動を覚えながら、世界最高峰のヒマラヤ山群を展望する。



朝陽を浴びて輝く、世界最高峰エベレスト 8848m(中央)、ローツェ 8516m(右)



ランタンリルン 7225m



ドルジェラクパ 6986m



ガウリシャンカール 7134m



メンルンツェ 8181m



チョオユ-8201m、 ギャチュンカン 7951m



マカル-8463m





午後、ガンジス川の源流パグマティ川沿いに在る、ヒンズー教三大神シバ神を祀るパシュパティナートを訪ねる。



境内には、シバ・リングムを祀る白い小堂 100 基以上が群立する。立ち上る煙は、遺体を薪の上に乗せて米ワラを被せて、火葬が始まっている煙だ。骨灰は川に流され、それが至福とされる。



立ち並ぶ白い小塔



内部にはシバ神の象徴シバ・リングムが祀られている。



夕方、世界最大級のストゥーパを誇るボドナートを訪れる。基壇を巡る大勢の人たちと一緒に参加者も巡る。



世界文化遺産ボド・ナート。建造物は、基壇、半球状土丘、四面に目が描かれた平頭、金色の尖塔そして最上部の法輪は、地、水、火、風、空の五大宇宙を表わしているといわれ。黄緑赤白緑の五色のタルチョーも同様の意を表している。AD500年に、マーナ・デバ王が建造したとされている。



基壇の上には、仏教の経文が納められているマニ車や鐘楼が設置されている。マニ車を回し、真摯に祈る人々。



1/4PM5:30、タメールのラム・ドワードルに MHC 短期大学奨学生 12 名のうち、パサングダワ奨学事務局長が責任引率者となり、奨学生 10 名とペンバツェリン、クムジュン校運営委員長(写真左)が夕食会に出席してくれました。出席した 10 名から、学生生活と将来の希望を聞き、彼らの若い心と情熱に激励を行いました。



ツェリン・カワル



ペンバツェリン



ツェリン・ウオム



ダワ・フティ



パサン・ヌル



ツェリン・タシ



ダワ・パサン



ペマ・チュティン



ドマ・ヌル



ニマ・ドマ

全員、カトマンズの短期大学に通学。経営学コース、教育学コース、そして医師などを目指し苦学しています。若い彼らが、シェルパの村を、ネパールを背負って立つ事でしょう。



パサングダワ事務局長



大河原由紀子支部長

1996年から2013年までMHC奨学生は、卒業生、現役生含め、延べ69名を数え、エベレスト街道を歩いていると、男女卒業生に出会う事があります。皆で、応援してあげてください。

1/4 深夜、カトマンズ空港を発ち、香港経由で 1/5PM1:25 東京・羽田空港へ全員帰国。長野市からの3人とは、再会を約して到着ロビーで別れ、松本方面の参加者は、待機していた貸切バスに乗り込み、一路高速道路を走り、PM6:00 松本駅アルプス駅へ到着、最終解散としました。「ご苦労様でした。」

参加者をはじめ、大勢の皆様のご理解とご協力のお陰を持ちまして、「第5回ネパール文化紀行」は成功裏に終了することができました。あらためて皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。

「第5回ネパール文化紀行」責任者

NPO 法人松本ヒマラヤ友好会 理事長 鈴木雅則